

リスク部会報（第10号）

2022年9月発行

目次

- (1) 第10回全体会議@「日本原子力学会2022年春の年会」の報告
- (2) 「日本原子力学会2022年春の年会企画セッション」の報告
- (3) ASRAM2022の開催に向けて
- (4) 令和4年度リスク部会運営体制（役員名簿）
- (5) 今後の活動
- (6) 編集後記

(1) 第10回全体会議@「日本原子力学会2022年春の年会」の報告

<http://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/meeting.html>

日時： 2022年3月18日（金）12:10～12:50

場所： ウェブ会議@Zoom

議事：

1) 開会挨拶：成宮部会長

・昨年9月の全体会議以降、第2代の部会長を務めている。リスク部会は、原子力学会として久々に新規発足した部会であり、はや5年目である。部会員も減ることなく推移しており、大変ありがたい。

・1F事項以降は、リスクへの対応が重視されPRAの実用について注目され、永らくPRAに携わっていたものとしては複雑な思いもあったが、リスクインフォームドが推進されていくは大変力強く感じており、これらの活動により、事業者・規制機関における継続的な安全性向上に資すると期待している。継続的な安全性向上は今のままでよいというものではなく、オブソレッセンスを含めて的確に対応していくことが重要であると考えます。

・一昨年度より原子力規制検査制度の本格運用など、リスク情報の活用事例は進んでいる。その他、OLMやRI-ISIは実現に向けて積極的に取り組まれていると認識している。

・本日の発表においても、積極的に野心的、トライやる的な試みが発表されている。リスク部会としては、最新の手法や事例の紹介、関連情報の共有、国際的な発表・意見交換の場の提供などを工夫しながら、積極的に展開していきたい。

・是非、皆さまのご協力をお願いするとともに、ご意見、ご要望を頂戴したい。

2) 運営委員の変更

・丸山副部会長が再任することについて、異議なく承認が得られた。

・総務・財務小委員会では、木村様が再任することについて、異議なく承認が得られた。

・企画・研究小委員会では、氏田様、河合様、張様が再任することについて、異議なく承認が得られた。

・国際小委員会では、白井様が新任、菅谷様、田原様、村上様が再任することについて、異議なく承認が得られた。

・広報・出版小委員会では、牟田様、井手様、蛭沢様、倉本様、竹田様が再任することについて、異議なく承認が得られた。

3) 運営委員の変更（新任委員の挨拶）：白井委員

- ・この度国際小委員会の運営委員に就任させていただいた。NRRC に所属しており、アポトラキス所長の指導のもと、外部ハザードに関する研究を中心に実施している。PSAM の合同理事会のメンバーであり、山口先生の後を継いで、去年から活動させていただいている。ASRAM との連携も視野に活躍してまいりたい。

4) 2021 年度下半期活動実績／2022 年度活動計画：各委員長（または代理）

- ・各小委員会より、2021 年度下半期活動実績・2022 年度活動計画について報告があった。
- ・総務・財務小委員会より 2021 年度予算執行実績・2022 年度予算計画について説明があり、異議なく承認が得られた。
- ・企画・研究小委員会報告に併せてリスク部会奨励賞の表彰があり、受賞者である東京大学（現 北海道大学）張氏、東芝エネルギーシステムズ株式会社廣内氏が表彰された

5) 質疑応答

- ・質問はなかった。

6) 連絡及び閉会挨拶：喜多副部長

- ・リスク部会に今後期待すること等について、リスク部会ホームページのお問い合わせ等より頂きたい。

以上

(2) 「日本原子力学会2022年春の年会」企画セッションの報告

<http://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/seminar.html>

日時： 2022年3月18日（金）13:00~14:30

場所： ウェブ会議@Zoom

参加者： 48名

座長： （電中研）喜多 利巨

Dynamic PRA の最新動向として、JAEA 安全研究センターにおける取り組み、リスクモニターにおける原子力プラント状態の動的挙動の表示、マルチレイヤーインタラクションモデルを用いた動的リスク評価手法について紹介があり、質疑応答を行った。質疑応答においては、プラント環境に応じた故障率の設定や、その他に開発が必要な事項について議論を行った。

【内容】

- ① ダイナミック PRA 手法の構築に向けて（玉置 等史；JAEA）
- ② リスクモニターにおける原子力プラント状態の動的挙動の表示（松岡 猛；宇都宮大）
- ③ マルチレイヤーインタラクションモデルを用いた動的リスク評価手法（牟田 仁；東京都市大）
- ④ 質疑応答

（敬称略）

発表資料及び会場での議論等の詳細については、リスク部会HPに掲載しています。

以上

(3) ASRAM2022 の開催に向けて

<http://www.asram2022.org>

2022年11月30日(水)～12月2日(金)に、ASRAM2022(Asian Symposium on Risk Assessment and Management、リスク評価とマネジメントに関するアジアシンポジウム 2022)が韓国 Daejeon で開催されます。

本シンポジウムは、日本原子力学会の共催により、原子力分野におけるリスク評価及びリスクマネジメントの研究者、利用者及び規制担当者が参加し、リスク評価に基づく意思決定に有効な確率論的リスク評価(PRA)に代表される確率論的手法の研究開発やその応用としてのリスクの評価およびマネジメントに関係する研究を発表するとともに意見交換を行い、アジア域における現状の認識および合意形成を図ることを目的としております。

ASRAMは、1992年から日韓で開催されてきたPSAワークショップの後継として、中国、アジアの原子力新興国も参加する形で2017年から開催しています。ASRAM2017(横浜)、ASRAM 2018(中国廈門)、ASRAM 2019(韓国慶州)、ASRAM 2020(日本主催 Virtual Online)、ASRAM 2021(中国主催 Virtual Online)と毎年開催を重ねてきました。PRA、シビアアクシデント、内的・外的ハザード、リスクマネジメントなどのテーマに加え、今年は第1回日韓PSAワークショップから30年目にあたることから記念講演も計画されています。多くの方にご参加いただき、数多くの発表が行われることにより、活発で有意義な意見交換や研究交流がなされることを希望いたします。

なお、ASRAM2022では、組織委員長として韓国原子力研究所のJoon-Eon Yang氏、共同委員長として原子力安全研究協会の山口彰氏及び中国清華大学のJiejuan Tong氏、技術プログラム委員として東京大学の高田孝氏、日本原子力研究開発機構(JAEA)の丸山結氏、大阪大学の竹田敏氏が務められています。

尚、新型コロナウイルスの感染状況によっては対面からVirtual Onlineに変更する可能性もあります。詳細は下記ウェブサイトをご参照ください。

<http://www.asram2022.org>

(日本エヌ・ユー・エス株式会社：菅谷淳子)

(4) 令和4年度リスク部会運営体制（役員名簿）

2022年9月9日全体部会で承認予定
(敬称略)

役委員会	氏名（所属）	役割
部会長	成宮 祥介（JANSI）	<ul style="list-style-type: none"> ・部会及び小委員会を統括 ・原子力学会代議員
副部会長	白井 孝治（電中研） 丸山 結（JAEA）	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長の補佐
幹事	各小委員会の委員長	
総務・財務 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◎桜本 一夫（電中研） ○木村 竜介（日立GE） ○国政 武史（関電） ○杉野 弘樹（MRI） 	（総務） <ul style="list-style-type: none"> ・事務 ・部会の開催等 ・他の小委員会が所掌しない事項 <ul style="list-style-type: none"> ・部会等運営委員会委員 （財務） <ul style="list-style-type: none"> ・部会の予算策定、管理及び決算
企画・研究 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◎丸山 結（JAEA） ○氏田 博士（アトパソリガ） ○河合 勝則（MHI NSIソグ） ○張 承賢（北大） ○今井 俊一（東電HD） 	（企画・戦略） <ul style="list-style-type: none"> ・部会の活動方針・戦略案の作成 ・活動方針・戦略に従った企画・執行 （研究） <ul style="list-style-type: none"> ・研究を活性化させるための活動の企画・遂行に関する事項 （人材育成） <ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成、研究者・技術者の裾野を広げるための企画、活動
国際小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◎菅谷 淳子（JANUS） ○白井 孝治（電中研） ○高田 孝（東大） ○田原 美香（東芝 ESS） ○村上 朋子（エネ経研） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際会議等の開催 ・国際協力窓口 ・国外学協会との交流
広報・出版 小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ◎牟田 仁（都市大） ○蛭沢 勝三（電中研） ○倉本 孝弘（NEL） ○竹田 敏（阪大） ○當房 拓朗（東芝 ESS） 	（広報） <ul style="list-style-type: none"> ・部会報、ニュースレターの発行 ・ホームページの作成・管理 （出版・編集） <ul style="list-style-type: none"> ・論文、論文集、教材などの出版・編集 ・編集委員会幹事会委員

◎：委員長、○：副委員長

(5) 今後の活動

リスク部会が主催・共催している講演会、企画セッション、学術会議等、直近のイベントをご紹介します。

日本原子力学会2022年度秋の大会 リスク部会企画セッション

タイトル：PRAの高度化の活動 リスク情報の活用に着目したPRAの改善

日時：2022年9月9日（金）13:00 ～ 14:30

開催方法：茨城大学日立キャンパス J会場

<https://confit.atlas.jp/guide/event/aesj2022f/sessions/classlist/616>

学術会議

ASRAM2022

日時：2022年11月30日（水）～12月2日（金）

場所：韓国 大田(Daejeon) Yousung Hotel

<http://asram2022.org>

PSA 2023 (NPIC&HMIT 2023 and PSA 2023 Co-Located Meetings)

日時：2023年7月15日（金）～21日（金）

場所：米国テネシー州、ノックスビル

<https://www.ans.org/meetings/npic13psa2023/>

(6) 編集後記

リスク部会の第10号の部会報をお届け致します。

リスク部会報は、半年に一度、その期間での活動内容の報告・紹介につき、広報・出版小委員会にてとりまとめて発行をしています。記事の作成につきまして、お忙しい中で御協力いただいた方々、大変ありがとうございました。

今後とも、様々な活動を通してリスクに関する情報の発信を行っていきたいと考えています。時事のトピックに関しては、部会報に加えて、ニュースレターの発行も随時行っていければと考えております。

部会報、ニュースレターへの原稿等は随時受け付けておりますので、リスク部会員の皆様からの寄稿もお待ちしておりますので、よろしくお願いたします。

部会報、ニュースレター、及び部会HPへのご意見、ご要望、ご質問等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: takeda@see.eng.osaka-u.ac.jp

リスク部会の HP: <http://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/index.html>

原子力学会員の方は、どなたでもリスク部会にご入会いただけます。リスク部会への入会をご希望の方は、原子力学会Web サイトの部会入会ページ (<http://www.aesj.net/activity/divisions>) から行えます。